

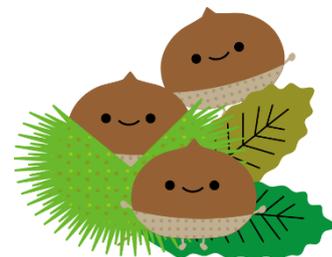
皆さん、こんにちは。

暑い暑い夏も乗り切って、やっと秋の気配がしてきました。

今年の夏もまた大変でしたね。これから毎年このような暑さと水の災害に悩まされるかと思うとうんざりすると同時に、これからどうなるのだろうと不安になりますね。

水に山に囲まれた日本では、安全なところなどほとんどありません。

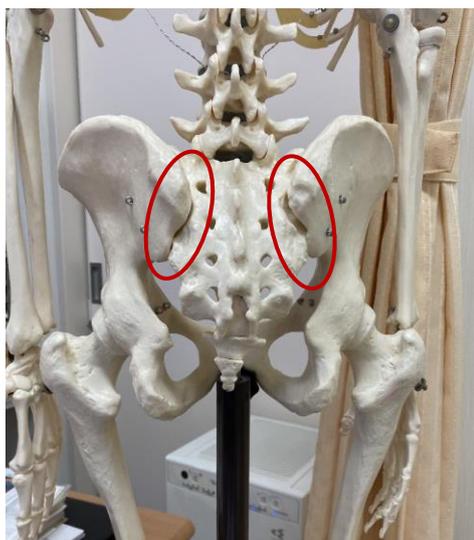
これからの私たちは、温暖化のもたらしたものと正面から対峙しなければなりません。



さて、千里ペインクリニック新聞も13回を迎え、今まで様々な痛みを取り上げてまいりました。今回は前回に引き続き、関節の痛みのお話です。皆さん、関節と言われると、思い出すのは、手や足の指の関節、手首や肘、肩、膝などでしょうか。関節とは、曲がって動かすところを言います。前々回は腰の関節の話、前は首の関節の話をしました。だいぶ時間が経ちましたが覚えておられますか？思い出してください。背骨には小さな椎間関節が左右にたくさんありましたね。その小さな関節の中には、髪の毛のような細い神経が通っていて、それが炎症をおこすとひどい痛みになるわけです。

人間のおしりの部分には骨盤という身体を支える大きな骨があります。腸骨、仙骨、恥骨、座骨からなります。腸骨と仙骨が接する場所が仙腸関節です。膝などと同じように関節包があり、歳を取るにつれ、変形が進みます。特に身体が固い方は、腰や仙腸関節を傷めることが多いです。

腰の椎間関節と同じように、レントゲンやMRIではそこに異常があるかどうかはわかりませんので、よく見落とされがちな場所です。我々は、仙腸関節痛を疑うと、透視装置を使ってその場所にブロック治療を行います。造影剤を使って関節の中に薬が入ったかどうか確認します。きれいに造影が描かれるときは、かなりの確率で痛みが取れます。しかし、変形が進んでいて、針がうまく関節内に入らないこともあり、大変難しいブロックです。うまく薬が入ったことが前提ですが、次回、患者様が来られた時、効果があったなら、患者様の痛みの原因が仙腸関節にあったことがわかります。患者様の痛みが治っていなければ、他に原因があることがわかります。しかし、仙腸関節ブロックの成功率は高くないので、判定が難しいことが多いです。



○部分が仙腸関節